



カトリック町田教会
町田市中町 3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512

いかずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。聞いた者は皆、羊飼いたちの話をも不思議に思った。しかしマリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。 ルカ 2.17-19

主の降誕に思うこと

主任司祭 高木賢一

これからの私の夢。それは、砂漠のご真ん中にテントを張って、コーヒーを飲みながら、もう三〇年以上もつきあっているパイプをゆっくりと燻らして、広大な砂漠を形作る地平線の日の出と日の入り、月の出と月の入りを、ゆっくりと眺めることである。

では、何故こう言ったことを夢見ているかと言えば、かつて旅をしたトルコのカパドキアでの体験に由来する。カパドキアの荒涼として雄大な自然、その風景に加えて、日の入りの場面を見てしまったのである。

と時間をかけて味わいたいと思ったのである。

砂漠地帯の日中は、まさに灼熱地獄と言えよう。それこそ命を拒む死の世界が拡がっているようにしか見えない砂漠が、しかし、いったん日が傾き、太陽が鈍い黒ずんだ赤い色に変わり、砂漠の地平線にその大きな姿が沈み出すと、一日の労をねぎらうかのよう

に、どこからともなく涼しい風が命を包み込むように吹いてきて、大自然が持つ本来の優しさが舞い戻って来る。私はその時を特にゆっくりと味わいたいのである。

さて、ドイツ人で、二十世紀最大の哲学者とも言われるハイデガーは、ある時、人類は大自然のほんの片隅に、そつと、そして謙虚に生きて行くべきである旨を語っているが、大変興味深い。勿論、ハイデガーがナチス・ドイツに積極的に加担したことは重々知っているし、そういった動きを是認する危険性が彼の思想には潜んでいると思うので、私としても彼の考えに手放しで賛同する訳ではない。

しかし、彼の含蓄に富んだ言葉に耳を傾けることは、今の切なる時代にあつては、大切なのではないだろうか。

彼の善し悪しは別にして、彼は、一九三〇年代当時の物

質文明が行き詰まりを見せ始めたかのような様相を呈していた時代にあつて、ある種の文化革命を目論んでいたと思うからである。

事実、ハイデガーのアメリカ嫌いは大変有名であるが、彼にとつて、アメリカという国は物質文明の悪しき象徴以外の何物にも思えなかつたということであろう。

だからこそ、彼自身、ドイツの南西部にあり、ドイツ語で「黒い森」という意味を持つ「シュバルツバルト」の人里離れた鬱蒼とした森の中に山小屋風の居を構え、あたかも物質文明から逃げ出したかのような生活をしていたと言える。因みに、その標高は約一五〇メートルということであるので、卑近な例で言えば、軽井沢が小淵沢に比較できるかと思う。

勿論、人口の急激な増大によつて、社会や生活の仕組みがあまりにも大きくなり過ぎた今、いくら地球温暖化が危惧されているとは言え、ハイデガーが目論んだような反文明的な生活を、全世界的な規模で速やかに行うことは不可能であるが、人類が、洋の東西を問わず、長い間自然の「揺り籠」に育まれてきた人間本来の姿を忘れて久しい状態が、長い目で見た場合、失つたも

の大きさはどれ程であろうか。

確かに、文明は功罪半ばということかも知れないが、それでも、これまでの負の側面を切り捨て続けた歩みは行き詰まりを見せ、とことん煮詰まってしまう感覚があることは事実である。

結果として、ある意味、根無し草的な不安定さ、根深い疎外感が、現代人の心の奥深くの片隅に潜んでいるのではないだろうか。

そんな根無し草的な思いが覆い尽くす時代にあつて、救い主が、弱々しい幼子の姿でこの世に生まれた、しかも、一人の皇帝の意志によつて作られた平和という名のもとのお仕着せの価値観を避けるようにして生まれた、という出来事は、とうの昔に忘れ去つた原点を思い起こすようにと語りかけているように思われるのではないかである。

と言つのは、自然の揺り籠に身を任せる幼子の姿に、神がもたらした命の秩序の内に調和する形で生きるように求められている人間本来の在るべき姿が示されていると思われるからである。

主の降誕に向けた「今」という時が、自らの存在の神秘に思いを馳せることができる時になればと思う。

エクレシヤ(Ecclesia)

運営委員 加瀬 弘子

運営委員会に参加して二年
残り時間も僅かとなりました。
「雷の子」に何か書くように
言われ、運営委員会の在り方
について少し考えてみよう
と思ひ立ちました。

町田教会の規約に「運営委
員会は、福音の精神に沿った
教会運営を目指し、教会活動
全般について信徒の意思を尊
重し…」とあり、その基本精
神は福音にあります。活動
は教会の社会的面を受け持っ
た委員会と私は認識していま
す。

初めの一年は、委員会の運
び方、その中で自分の与えら
れた仕事をどのようにこなす
か等、を学ぶのに費やされた
気がします。二年目になり少
しあたりも見回せるようにな
り、「福音の精神に沿った」
の面に目が向くようになりま
した。

教会のことを本来は、「エク
レシヤ(ギリシア語)」と言
うそうですが、それは、「其
処にいる誰かに惹かれて集っ
てくる者」と言う意味で、「教
え」の概念はないそうです。

其処にいる誰かはイエス・
キリストであり、教会に集ま
ってくる人は、皆その「愛」
の生き方に引かれて、心の何

処かに安らぎや癒しを求めて
集まってきたのではないかと
思うのですが…多様性の中
の「一致」と言う詞がしばしば
語られますが、神様との関係
は、人それぞれ異なる「け
れど、エクレシヤの集まり
ならば、この「愛の生き方」
の一点だけは同じなのではな
いでしょうか。「福音の精神」
はこの事を意味しているのだ
はないでしょうか。

ともすれば、私達は、言葉
だけの観念的な信仰になりや
すいのですが、信仰は、人の
生き様の中にあつて初めて本
物となるのではないかと思ひ
ます。「愛」と言つと難しい
解釈が出てきますが、キリシ
タン時代使われた「ご大切」
は、私達にもっと身近に感じ
られます。人を大切にすること
とは、毎日の普通の生活の中
に絶えず出会う事柄です。
難しいことでもなく、と言っ
ても人にとつては一番難しい
ことかもしれません。でも、
エクレシヤの集まりならば、
それに向かつて共に努力する
ことは出来るのではないでし
ょうか。

この一年の運営委員会は、
絶えず笑いのある楽しい会議
でした。今後も、福音の精神
に沿った、エクレシヤの委
員会でありまますように祈つて
います。

福音の集いの会

毎日曜日、東京大司教区の「聖書の集い」に従い
幸田司教の「福音のヒント」を題材にして
分かち合っているグループをルポ(池永)

★会の目的★
 ♥ 私達の現実の中で神がともにいてくださることを確認
 ♥ 霊的成長
 ♥ 信仰の仲間作り

☆毎日曜日 午前8時45分～10時15分まで (第1ミサと第2ミサの間) 第2会議室で

途中参加や退席OK!

代表 池田克久さん

丸井千尋さん (お気軽に立ち寄り下さい!)

幸田和生司教 (プリントしたものを用意)

安心 分かち合いをするためのルール

1 口外しない
2 支配しない
3 批判、議論しない

聖霊の導きに従おうとする場

神が語ることを聞く

沈黙

活動グループ

主日の福音

こんな方にピッタリの会

わからない?!

わかちあい

下調べおせらい

奉仕活動には自信がない...

☆「聖書の集い」<http://tokyo-catholic.jp/text/diocese/sgroup.htm>
☆「福音のヒント」<http://tokyocatholic.cocolog-nifty.com/>

心を合わせて、食卓をとともに

… 厨房改善に携わって…
施設管理委員 大木 雅 信



厨房改善計画が来春の工事完成を目指し、新しいステップに進んだことに、まず皆様に感謝を申しあげます。

検討を始めて以来、多くの方から「現場を見に来た」、「皆さんが狭いところで苦労していることがよくわかった」と、声をかけていただきました。改善については、いろいろな考え方がありましたが、多くの方が、現場をご自身の目で直接に見て、課題を確認共有いただけたことは、本当にありがたいことでした。計画作成で心がけたことは、第一に、聖堂内外の整備や会合スペース不足への対処など多くの課題があるなか、過大な投資を避け、「ストッパーマン」を大きくすることでした。あらゆる活動に共通の大切な要素のひとつである「食卓をとともに囲むこと」、「ここに常に心を留めながら、厨房のなかに、現在の課題を解決するだけでなく、新しい活動、特に若い世代の皆様様の活動を期待できる内容を用意すること、多くの方が安心して、快適に作業できる環境をつくること、安全を第一に考えた設計をすることでした。

第二は、心をこめて、現場を見て、様々な意見をいただき、

調和のとれたあるべき姿を構想してプランをつくり、そのうえで、適切なプランに絞りこむことでした。11月の臨時総会で確認された基本(案)は、この当初の構想を重点項目を中心に絞りこんだもので、これから詳細な実施計画に落とし込んでゆきます。そのなかで皆様と連携をしながら、ともに良い内容に仕上げ、また実際に施工をいただく協力会社の皆様とも心を合わせ、よりよい厨房が実現するよう心がけてまいります。

また今回の改善計画は、多くの方が意見交換、調整を続け、運営委員会を中心に関係組織がそれぞれの責務を全うするなかで進捗し、聖堂共同体としての意思決定がされたことには大変よかったですと感じております。私たちの祈りと想いを結集し、信者各位の献身的な努力で献堂することのできたこの教会が、広く社会に開かれ、いつまでも全ての信者の皆様とともに生き生きとした活動のできるよつな環境を整えてゆくよう、微力ではありますが努力をしてみたいです。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

深大寺紅葉狩り

仁藤 芳栄

数日前は雨マークの天気予報で、心配していた天候とはうって変わって、絶好の行楽日和となったこの日(11月20日)、神に感謝。

調布駅でバスに乗り換えて、深大寺にお昼近くに到着。深大寺の鐘が私達二十名を出迎えてくれた。門前の紅葉を楽しんだ後、一同昼食の深大寺蕎麦に舌鼓を打った。

昼食後、境内に続く階段の途中から黄緑と深紅に彩られた紅葉の狭間に、参道を行き交う人達を垣間見る風情は、

日本人の感性だなしみじみ思った。境内に入り、常香楼でお賽銭をあげて線香に火をと

もす。いつもはカトリックだからと遠慮していた私も、高木神父様が「お寺へ行ったらお賽銭をあげてもいいのですよ」と言われていたのを思い出

し、心置きなくそのように出した。私達は七五三のお祝いで賑わう天台宗の読経の中本堂を通り抜け、白鳳仏を見に釈迦堂へと向かった。白鳳仏は立像に非ず座像に非ずと記され、どこか京都広隆寺の半跏思惟像の面影が彷彿とする。

次に、神代植物公園に向かった私達は、深い森の新鮮な

ワンポイント聖書



(179)

前島 誠

「西の方角」

主は私に言われた、「もう十分だ。この事について、もう一度と私に語ろうとするな。ピスガの頂上に登り、お前の目を海の方へ、また北の方へ、また南の方へ、また東の方へ上げよ。そして見よ、お前の目で。お前はこのヨルダン川を渡って行けないのだから。それでヨシユアに命ぜよ。彼を強め、励ますのだ。彼はこの民の先頭に立って、お前が今見ている土地を、彼らに継がせるだろう。」

申命記3章26、28

引用は、約束の地を目の前にして、主がモーセに語った言葉でした。

ピスガは、塩の海の東側に位置するアバ

リム山脈の北部にある山。この頂上からは遠望がきき、パレスチナ全土が見渡せる。モーセはここに登って約束の地を眺め、そして、天に召されたのでした。

ここでテキストは「海の方へ」と語りま

す。原文には「ヤマー・YMH」(YM海・Hの方へ)とあります。ご存知の通り、イスラエルの国土の西側が全面地中海に占められているため、こういう表現が自然に生まれたものでしょう。

「その日、風の吹くところ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた」(創世記3章8)と語られる。原文で「音」は「主の声」とあります。その声は、自分にも訪れる風なのかもしれません。



七・五・三 おめでとう



「絹の道の伝道」上映会
 11月6日(土) 聖堂においてDVD「絹の道の伝道」の上映会が開かれた。東京教区部落問題委員会製作のこの作品は、明治初期のカトリック伝道と被差別民との関わりを軸に「絹の道」をたどるもの

空気の中をバラ園を目指してウオーキングした。森を抜けると目の前が急に開け、色とりどりの鮮やかなバラが目の前に飛び込んできた。秋のバラは色美しく芳香で、私達は広いバラの庭園を時間を忘れてしばし散策した。

最後に、調布教会に行き聖体訪問をした後、コンプリ神父様の案内でチャムツェイ神父様の柩をお参りして、資料館を見学した。晩秋の夕日を背にして、快い疲れと共に一同帰路へ、稔り多い一日でした。

で、上映後、岡田大司教と高木神父との分かち合いがおこなわれた。

ボーイスカウト町田第1団 創立50周年

11月23日、当教会においてボーイスカウト町田第1団創立50周年の式典が催された。開会セレモニーのあと、第1団の創立にかかわりの深い川原謙三神父の司式による記念ミサ、続いてパトリオン歌手吉江忠男氏のコンサート(伴奏E・ヘルツォーク)がおこなわれ、OBを含め100人を超える関係者が盛大な祝賀行事を盛り上げた。



祝賀会で祝辞を述べる川原神父



短歌

井上芳子

あさむ 朝寒に気付かばいつか晩秋に

うら淋しさの忍びよりて候

晩秋に紅葉狩をと誘われて

冷や冷や風に顔撫でられり

病いえて今日退院の秋日和

流れる雲も何故かなつかし

こおるぎ 蟋蟀の途切れとぎれの声あわれ

まして夜寒のつる日々おや

早や立秋木蔭に立てばちらちらと

えんじゆ 槐の花の風に舞いちる

犠牲献金 中高生会

10月3日 12,042円 (ペロニカ苑へ)

11月7日 10,573円 (ハイチ地震へ)

クリスマスと年始のミサ

☆クリスマスのミサ

12月24日(金)	17:00
	19:30
	22:00
12月25日(土)	10:00
	(18:30はありません)

イブ(24日)のミサ前にミニコンサートを行います

☆年始のミサ1月1日(土)

00:00
11:00

「雷の子」次号編集会議予定
 1月23日(日)09時30分 於会議室

信者動静について
 信者動静は月単位で期間の表示をしていますが、原稿締切の時期の都合上、表示された月のデータに積み残しが発生します。その場合は次号に掲載されませんのでご了承ください。

信者動静

2010年9月~11月

(個人情報のため、削除しています)